

氏名	喜多島 昌 二		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 9 2 号		
学位授与の日付	昭和39年 9 月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	毛様体上皮細胞の電子顕微鏡的研究		
論文審査委員	教授 赤木 五 郎	教授 尾曾越文亮	教授 小川 勝 士

#### 学 位 論 文 内 容 要 旨

成熟白色家兎を使用し、電子顕微鏡により、正常状態並びに、前房穿刺及びダイアモックス、尿素、アスコルビン酸静注の機能負荷を加えた際の毛様体上皮細胞の変化を観察、細胞微細構造と細胞機能との関係に就いて検討し、次の結論を得た。

毛様体上皮細胞には多様性が見られ、機能上期相を異にした種々の細胞が同時に存在し、房水生成の機能に関与しているが、その中心となるものは外層上皮細胞であり、外層上皮細胞には一種の分泌機能の存在が推定される。しかし乍ら第二房水は一部亢進した毛様体上皮の分泌物も混じているものの、大部分は細胞間隙に出た血管濾出液より形成されるものと考えられる。

第Ⅰ報 昭和39年7月、日本眼科紀要第15巻第6号に掲載予定。

第Ⅱ報 昭和37年11月、日本眼科学会雑誌第66巻第11号に掲載。

第Ⅲ報 昭和39年7月、日本眼科紀要第15巻第6号に掲載予定。

## 論文審査の結果の要旨

喜多島昌二提出の「毛様体上皮細胞の電子顕微鏡的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

この研究は、眼房水の生成機序を電子顕微鏡のレベルで形態学的に捉えんとしたものであって、家兎の毛様体上皮の正常像及び前房穿刺や諸種薬物静注などの負荷を加えたときの組織像を比較検討することによって、毛様体上皮細胞には機能上期相を異にした色々な細胞が同時に存在することから形態学的には一種の分泌機能の存在が推定されるが、その中心となるものは外層上皮細胞であるとしている。

しかしながら前房穿刺後に生産される所謂第二房水は一部には亢進した毛様体上皮からの分泌物を混じているが、その大部分は細胞間隙に出た血管濾出液によって形成されるものであることを明らかにしている。

以上の通り、本論文は眼科学におけるきわめて重要な問題の一つである房水生成機序を明らかにする上に新しい知見を加えたものであり、学術上有益であり著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。